

議 事 概 要 書

会議名称	令和８年度 第２回社会教育委員会議（臨時会）
日 時	令和８年８月７日（金）会議：午後１時１０分～２時１０分 視察：午後２時３０分～４時３０分
場 所	伊那市役所 ３０３会議室
出 席 者	伊那市社会教育委員：委員８名（欠席１名） 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、係長、担当
議 題	下記のとおり
議事内容（要旨まとめ）	
１ 開会（教育次長） ２ あいさつ（教育長、会長） ３ 会議事項（進行：会長） （１）令和８年度社会教育委員の実践活動について ＜イベント等参加報告から＞ ■「脳イキイキ出前講座（園児交流）（５月１５日）」の報告 西箕輪南部保育園での園児と高齢者の交流活動に参加。 ・活動内容：触れ合い遊び（手をつないで遊ぶ）、保育園の歌の合唱、輪投げ、おやつの時間 ・良かった点：子どもたちと手をつなぎながら、最初は互いに遠慮がちだったが、ゲームが進むにつれて一緒に楽しめるようになった。子どもたちの柔らかい手の温かさが印象的であり、本当に楽しい時間だった。 ・気づき・課題：地域の子どもは１０人いるかいなかくらいで、少子化が進んでいることに改めて驚いた。子どもたちが健やかに幸せに成長できるよう、地域でも見守っていかなければならないと感じた。また、暑い日だったため、テントがあれば良かったと思われた。 ・参加者の様子：６０歳以上の約３０人の高齢者が参加し、子どもとペアになって本当に楽しい穏やかな時間を過ごすことができた。 ■「進徳館の日（５月２３日）」の報告 高遠閣で開催された「進徳館の日」に参加。 ・プログラム内容： - 基調講演 高遠中校長先生による講演 - 学習発表 高遠小校長先生の講話と高遠小音楽クラブの演奏 - 講演会 「写真でよみがえる高遠・伊那のあの頃」と題して、高遠町歴史博物館前館長による講演 ・特筆すべき場面：高遠中の校長先生の講話の中で、高遠中学生について触れられた。その日は進徳館の日記念少年剣道大会が開催されており、大会終了後に駆けつけた中学生が登壇してトークを展開。その子どもたちの様子から、校長先生が述べられた「高遠力」が実際に見られ、感心した。	

- ・音楽クラブの演奏：高遠の曲を歌った音楽クラブの子どもたちの、美しく清らかな声に心が洗われるような思いを抱いた。
- ・講演会での学び：昔の写真を多く見せていただき、写真の説得力と事実を伝える力について改めて認識した。昔の高遠の人たちの温かさや住民の熱量が伝わる写真が多く、懐かしさや、過去から未来へ繋がる一筋の道を見たような感覚を覚えた。
- ・良かった点：生徒や児童の姿が見える内容だった。会が始まる前に、高遠中の生徒さんが野点をしてくださり、その時の中学生の対応の仕方から「高遠力」が感じられた。季節的に青葉若葉の公園の中を散策しながら高遠閣に向かうことができ、清々しい時間を過ごすことができた。進徳館の場所を実際に見て、高遠城址公園を見ていただくことの大切さを感じた
- ・課題：会場の広さや会の性質上、難しいかもしれないが、プロジェクターで映したり歌の発表があったりするときに、会場がきっちり並んでいて、ちょっと見にくかったり感じにくかったりすることがある。発表者を囲むような形であっても面白いのではないかと個人的に思われた。

■「竜東線に花と緑を（6月7日）」の報告

中央区竜東線沿いでの花と緑の活動に参加。

- ・事業の背景：この事業は県の補助を受けており、15年間続いているイベント。発端は当時の区長さんの呼びかけから立ち上げられたもの。区民から「草がぼうぼうだ」「目に見えるところに花を植えたら」など改善を望む声があり、これが契機となった。
- ・事業内容と参加者：春に西洋アジサイやマリーゴールドなどを植える。秋に株を残して約10センチくらいに切り取り、始末する。事業所（郵便局など）や地域住民も参加している。
- ・成果と反応：車で通った人からは「いいことやってるね」「綺麗だね」といった言葉をいただいている。

<地域の話題（その他の委員からの発言）>

■高遠町図書館の「こども科学教室」の報告

毎年、高遠町図書館館長が、子どもたちに優しく科学実験を行っている。今回は、マイナス196度の窒素ガスを使ってボールを凍らせ、凍ったボールが全く弾まなくなることを実験。子どもたちが目をキラキラさせて見学していた。

先日、諏訪・上伊那地区社会教育委員連絡協議会研修会の「科学遊びを楽しむ活動」（富士見町）についての講演を聞いたが、高遠町でもとても良い活動をしていることを知ってもらいたい。

■おいで塾についての課題と工夫

複数の委員から、各地区で開催されたおいで塾についての感想と課題が述べられました。

- ・美篤地区：低学年が多く、管理が大変だった。いろんなスタッフが上手に動くことが必要。子どもたちの夏休みという学校のない時期をどう過ごさせてあげるか、3日間の中でどうやってあげるかが難しい。
- ・富県地区：「人の話を聞く」「感謝や挨拶」「困ったことを相談できること」の3つの柱を大事にしていることが紹介されました。これにより、子どもたちも含めてスタッフとしても、参加しやすい環境が作られた。高遠高校と上伊那農業高校の2つの高校がボランティアとして来てくれ

た。この関わりはとても良いことだが、担当の先生が変わっても継続していけるかが課題。

- ・西春近地区：毎年、希望者が非常に多く、約 100 人が参加。5 つの班に分かれ、1 班 20 人を受け持ち。西春近は南小と北小とあるが、おいで塾で一緒にやることで、南北の交流が実現されている。伊那西高校は地元であり、今年は 2 日目と 3 日目に 7、8 人ずつ参加してくれ、子どもたちも高校生が指導者ということで接しやすく、非常に良かった。

(2) 令和 8 年度上伊那地区社会教育委員研修会について (係長)

＜質疑・意見＞なし

(3) まほらいな市民大学について (係長)

＜質疑・意見＞

- ・シニア大学の入学は 4 月、市民大学は 10 月ということで、年度切り替わりの入学時期に変更してもいいかもしれない。
- ・令和 7 年度からの取り組みで、公民館講座とタイアップすることで、市民大学の方が公民館の講座に参加するという流れもあり良いことだと思う。

(4) その他

- ・社会教委員発 我がまちのいいところ 10 選視察計画 (担当)

＜質疑・意見＞なし

4 その他

5 閉会 (副会長)